

生きがい現役



倉澤 益子（旧姓羽生）

（高校 17 回） 飯島町在住

この度 弥生ヶ丘高校百周年記念 広報紙発行にあたり、2月に私ども17回生の同級会を行いました。その中で、現在 親の介護をしている人、廻りの人の病気、自身の健康問題等 話題となり、現在63才の今も現役で 介護現場にて働いている私が、ありのままを書くことで 何かのお役に立てばと思い、原稿執筆依頼を お引き受けいたしました。

私の勤めている施設にも、大正6年生まれの弥生の先輩が、同年生で二人入所されています。93才ともなれば、お互い認知症も加わり、話もちぐはぐではありますが、「隣のクラスだったよね」等と話されている。

「私も後輩です。」と言いますと「どこかで見た顔だ。隣のクラス？」とおっしゃる。

「当時の学校はどうでしたか？」とお聞きすると「ハカマにクツを履いて、お嬢様だったの」もう一人の方は、「家が学校の近くで、父親はあまり働かず、男衆をつかっていたの」と話してくださいました。

お二人とも、女学校を出たことに誇りを持って、現在心穏やかに過ごしておられる。そのお一人の方の長男さんが、仕事上遠方に住んでおられ、時々ご夫婦お孫さんらが会いにこられる。

先だって、お嫁さん、お孫さんに「遠方で来られない時、ハガキを書いてくだされば」と提案しました。「そうですね」と同意を得ることができました。以前に家族から来たハガキを皆に見せて回って、涙を流して喜んでいたおばあちゃんを思い出したのです。

ハガキ1枚の威力。こんなに安上がりな親孝行があるんです。

毎日でも構いません。内容は楽しいこと、楽しかったこと、絵だっていいと思います。

遠く離れていてもいつも思っていてくれると感じられると心豊かになることでしょう。

会いに来て帰ってしまった後、後を追って、廊下を行ったり来たり落ち着かなくなりました。

まだ親孝行のできるチャンスのある人は幸せです。

私達介護員も、以前の見てあげる介護から、見させていただく介護に変わり、自分も入所したい施設をめざして、日々勉強、努力をしております。

誰もが訪れる老いと、人生の終焉を穏やかに迎えられよう、元気のうちに、心のどこかにおいておきたいものです。

勉学中の皆さん、学問はもちろんですが、それと同時に、心やさしい、豊かな人生を送っていただきたいと思います。